事例 19

タイトル	困った時に相談してもらえる関係づくり
支援契機	転入について相談があった
家族数の変化	4 人→5 人→6 人→7 人→5 人→4 人
把握時の家族と年齢	母（20 歳）妊娠中、第 1 子（0 歳）、母の実母（53 歳）、母の兄（23 歳）
支援年数	11 年
関係機関	児童相談所、保育園、民生児童委員、婦人相談所
特徴	DV で逃げるようにして転入してきたが母親に危機感はなく、母の実母が心配をしていた。母親のパートナー（夫）に子どもが怯えるなどがあり要保護児童対策地域協議会で支援について検討した。母親の仕事、離婚、保育園入園など子育てのみならず母親の生活が安定するように助言をし、母親との関係が切れないように見守り支援を続けた。

事例 20

タイトル	精神疾患の母親の育児を支える
支援契機	母の母（祖母）が DV を受けている娘（母）を他市から連れて帰り、役場に相談した。
家族数の変化	4 人→3 人→2 人
把握時の家族と年齢	母（42 歳）精神疾患、第 2 子（13 歳）、第 3 子（11 歳）、母の母（73 歳）
支援年数	7 年
関係機関	児童相談所、警察、医療機関、福祉事務所、保育園、民生児童委員、小学校、中学校
特徴	他市から要保護児童の転入について連絡があった。母親が精神疾患の未治療で第 2 子はネグレクト状態で育った。母は受診はするが主治医の指示は守らず自己判断で服薬をする。転入当初は母の実家での同居生活をしていたが、その後母の実家に近いアパートで生活している。母が家事をせずゲームをしているために親族から非難されている。子どもたちは不登校になったり地域で問題を起こしたりしている。

事例 21

タイトル	うつ病で家事育児が滞る母親の子育て
支援契機	転入時に相談に来所
家族数の変化	3 人→4 人→5 人
把握時の家族と年齢	母（25 歳）うつ病・妊娠中、父（33 歳）、第 1 子（8 歳） 第 2 子（5 歳）施設入所中
支援年数	1 年
関係機関	児童相談所、医療機関、家庭児童相談室、保育園、民生児童委員、小学校、家事支援サポーター
特徴	母はうつ病のため家事・育児ができなく、児童相談所が要保護児童として支援をしていた。第 3 子出産に向けて関係者で準備した。母は食事を作れるときもあるが、何もできない時もある。第 2 子を施設から引き取り、父親の実家に同居するため県外に転出した。要保護児童対策地域協議会として転出先に継続支援を依頼した。

事例 22

タイトル	トラブルメーカーの母親の子育て
支援契機	妊娠届に来所
家族数の変化	4 人→5 人
把握時の家族と年齢	母（22 歳）妊娠中・療育手帳、第 1 子（2 歳）、母の母（59 歳）、母の叔父（60 歳）
支援年数	6 年
関係機関	児童相談所、医療機関、子育て支援課、保育園、障害福祉課
特徴	母親は攻撃的になるタイプで、仕事が長続きしない。母、母の母（祖母）は役場に相談に来るが、ともにアドバイスをされたことを実行しない。家庭訪問は拒否されるので、来所時にこどもの計測や生活のことを把握するようにしている。母親は周りと次々とトラブルを起こすタイプで、親身になって相談にのってくれる人がほとんどいなくなった。

事例 23

タイトル	生活を支援していた祖母が脳卒中
支援契機	第 1 子の 1 歳 6 か月健診
家族数の変化	3 人→4 人→5 人→6 人→7 人→6 人→8 人
把握時の家族と年齢	母（28 歳）妊娠中、父（第 5 子出生後に離婚）、第 1 子（1 歳 6 月） 離婚後は母の実家に同居
支援年数	15 年
関係機関	保育園、医療機関、福祉事務所、障害福祉課、児童相談所、子育て支援課、小学校、中学校、青少年センター、母の実母（祖母）のケアマネージャー
特徴	保健師が引継ぎをしながら支援した。母親は家事育児ができず母の実母(祖母)が支援していたが脳卒中でできなくなった。子どもたちは不登校になった。月 1 回は生活保護の窓口に来る。要保護児童対策地域協議会で見守りを続けている。

事例 24

タイトル	子どもに暴力の連鎖
支援契機	保育園から母親の妊娠について連絡
家族数の変化	6 人→7 人→7 人
把握時の家族と年齢	母（34 歳）、第 1 子（12 歳）、第 2 子（8 歳）、第 3 子（7 歳）、第 4 子（2 歳）、第 5 子（1 歳） 父（第 6 子出産後に離婚）
支援年数	11 年
関係機関	児童相談所、警察、医療機関、福祉事務所、子育て支援課、保育園、小学校、中学校、女性相談所、養護施設
特徴	実家親族の支援者がいない。父からの DV で母は母子寮に入居して離婚した。第 2 子が第 1 子から暴力を受けていることがわかり、第 2 子、第 5 子、第 6 子は施設に入所した。高校生になった第 2 子が第 3 子、第 4 子の生活を心配している。母は就労しているが、ガスは止められている。要保護児童対策地域協議会で見守りを行っている。

事例 25

タイトル	保健師が最後までうまく関われなかったと感じている事例
支援契機	自閉症の疑いと診断された母親が来所相談
家族数の変化	5 人⇒6 人⇒5 人
把握時の家族と年齢	母親(34 歳)精神疾患、 第 1 子(女 14 歳)、第 2 子(男 12 歳)、本児：第 3 子(男 3 歳)、第 4 子(女 1 歳)
支援年数	3 年 1 ヵ月
関係機関	医療機関(小児科、精神神経科)、養護施設、福祉事務所、児童相談所
特徴	第 3 子の言葉の遅れを指摘され(転入前)、大学病院受診し自閉症の疑いを指摘された。母親が離婚、転入し、自閉症疑い・皮膚アレルギーの相談にきた。アレルギー症状がひどく、様子観察のため家庭訪問するも不在が多く、困ったことがあれば保健師に相談に来た。 母親は統合失調症のため受療中で服薬管理はできているが、こどもの世話をしない状態であった。生活保護ケースワーカーを通じて健診や予防接種の指導をするも来所せず、うそや取り繕うことが多かった。第 5 子はパートナーが異なり、発達に遅れがみられ施設訓練が必要であるが通園させていない。第 5 子が 1 歳の頃、3～5 子の施設入所の相談をした経緯がある。第 4 子は養護施設入所し、隣市への転出で支援終了。第 3 子以降は健診や予防接種を受けていなかった。

事例 26

タイトル	保護観察中のパートナーとネグレクトで育った 10 代の母親
支援契機	祖母が高 2 の娘のために母子健康手帳を取りに来たことで把握
家族数の変化	5 人⇒2 人
把握時の家族と年齢	母(17 歳)精神疾患、母の母：祖母(42 歳)うつ病、母の父：祖父(服役中)、母の妹：叔母(12 歳)、 母の弟：叔父(7 歳)
支援年数	3 年 10 ヶ月
関係機関	保健所、児童相談所、福祉事務所、保育園
特徴	母親はパニック障害があり、祖父不在、祖母にうつ病、小中学校の頃にネグレクトであり、小中学校不登校のため他部署で見守り支援中であった。 高 2 で妊娠し、祖母が「困った、困った」と母子健康手帳を取りに来た。高校中退後に出産し、母親家族と別居し、同アパートの別室に居住、生保となる。パートナーは部屋に注射器があったことから通報された。 その後母子寮入所するも飛び出した。母親は不眠、うつで精神科で治療中、部屋は若者のたまり場となっており、保健師が訪問しても部屋に入れてもらえない。児には問題はみられないが健診未受診である。保育園入所し、食事と保育園通園が課題である。

事例 27

タイトル	車椅子生活で DV をする夫をもつ発達障害の母親
支援契機	母親より 1 歳半健診時に児に対する父親の叱責が厳しいと相談があり、介入を試みるもうまくいかず、3 歳児健診で再訴えがあり、児の発達障害がわかった
家族数の変化	3 人⇒4 人
把握時の家族と年齢	母親(31 歳)、　父親(31 歳)身体障害、　本児(男 1 歳半)
支援年数	7 年
関係機関	児童相談所、医療機関、福祉事務所、保育園、小学校、家庭児童相談室
特徴	転入事例。父親は 17 歳で事故に遭い下半身麻痺となり車椅子生活で、母親が 28 歳で結婚。母親は軽い知的障害？（理解度が低い）があり、本児が 1 歳半の時に転入してきた。3 歳児健診で体重増加不良、多動がみられ、ADHD と判定された。介入が困難で父親より「生活に口出すな」といわれ、母親がリュウマチのため保育園入所となる。保育園とのトラブルが多く、発達支援センターが担当することとなった。第 2 子が生まれたが、特に異常はないが父親は時に言葉による叱責はみられる。 父親は被虐待の経験があり、母親に対し言葉による DV、こどもに対する DV が見られる。両親は共依存の関係が認められている。

事例 28

タイトル	発達障害を認めたくない祖父母と葛藤し対応が遅れた母親
支援契機	乳児健診でよだれを呑み込めない、運動発達が遅れ気味であり、児童相談所と協議し経過を観察となる。3 歳児健診でも遅れを指摘されたにも関わらず母親が専門機関へ受診ができなかった。
家族数の変化	3 人⇒5 人
把握時の家族と年齢	母親（31 歳）、父親（31 歳）、本児（男 1.5 歳）
支援年数	13 年間
関係機関	児童相談所、医療機関、幼稚園、小学校、中学校、教育大学
特徴	母親の実家が近くにあり、実家との関係は良い。母親は幼少時より両親より厳しく育てられた。知的発達は問題なかったが、運動発達が遅れ気味であった。母親は健診毎に専門機関を進められるも対応できなかった。小学 3 年より絵や文字が書けないなど学習上の課題が生じ特学通級となる。父親は会社員。母親に精査を勧めるも受け入れができず、あるいは予約した専門機関を当日ドタキャンすることが 2 回あり、診断および早期対応が遅れた。母親が祖母に相談すると「育て方が悪い」と一喝され、母親の責任とされたため、受診ができなかった。第 2 子・第 3 子が誕生したが特に異常はみられない。 母親は知的レベルの高い家庭で育ち、祖父母に対し強い威圧感を感じていた。

事例 29

タイトル	ネグレクトで育ち中学卒業直後に出産した母親
支援契機	中学 2 年生時に不登校で夜間徘徊があり、通報され、見守り支援を受けていた。中卒直後に父親不明で出産、特定妊婦として医療施設より情報提供あり。
家族数の変化	3 人⇒4 人
把握時の家族と年齢	母親(14 歳)、母の父：祖父(56 歳) 、母の妹：叔母（13 歳）
支援年数	8 年
関係機関	中学校、保育園、医療機関、民生児童委員、家庭児童相談室
特徴	母親は、祖父と母親の妹と 3 人暮らしであったが、中学 2 年の頃より不登校で把握・見守り支援をされていた。読み書きは不充分で、計算ができないなど知的レベルが低いが口達者である。父親不明のまま妊娠・出産し、特定妊婦として医療機関より情報提供があった。 別所帯となり、養育未熟、うつ状態で生活保護受給となり、乳児(女)は保育園入所となった。家事はできず弁当等を食べており、乳児健診未受診、予防接種未接種であった。その後 4 人と結婚離婚を繰り返し、40 歳台の夫(うつ病で治療中)と 3 人暮らしである。 実家とは疎遠で、祖父は借金をかかえ、祖母とは離婚していた。

事例 30

タイトル	医療施設から依頼された飛び込み出産事例
支援契機	飛び込み出産をした医療施設より、母親の支援を依頼された
家族数の変化	2 人⇒3 人
把握時の家族と年齢	母親(34 歳)、本児(男出生直後)
支援年数	8 年
関係機関	医療機関（産科、精神科）保育園　小学校
特徴	母親は、精神疾患で治療中であるが保険会社に勤務。知的にはボーダーのレベルでお金の管理がうまくできないこともあり、経済的に困窮。話が好きで仕事には熱心。愛人関係の父親とは交流は多くはない。母親もネグレクトのようであるが実家との関係はよい。 第 1 子は、発達障害(ADHD)のため特別支援学級に入学し、第 2 子(男)とも関わりは薄く、ネグレクトの状態である。母親は感情処理がうまくいかない時はこどもに暴力をふるうことがある。 窓口や電話にて時々相談することで、感情コントロールがうまくいくようになった。

事例 31

タイトル	パートナーからの DV が疑わしい統合失調症の母親
支援契機	医療機関より精神疾患の妊婦支援依頼
家族数の変化	2 人⇒3 人⇒1 人
把握時の家族と年齢	母親(30 歳)妊娠中　精神疾患、パートナー(36 歳)
支援年数	1 年
関係機関	医療機関　保健所　児童相談所　福祉事務所　家庭児童相談室
特徴	母親は実の父親(祖父)の死後に祖母が蒸発した結果、親戚に引き取られて育てられた経験を持ち、精神疾患で治療中であった。飲食業のパートナーと共に就労しており、産後も早急に就労するようにパートナーより言われていた。 パートナーは感情コントロールがうまくできず、母親に対し言葉の暴力がひどかった。実家の支援も得られず、産後はパートナーと離れて暮らしたいという希望があり、パートナーと別れ貯金を取り崩しながら生活している。 男児に対して精神状態が悪い時は世話をせずネグレクトの可能性がみられ、こどもは児童相談所の一時保護となった。その後、県外へ転出となった。

事例 32

タイトル	共に精神疾患の両親をもつこども達への支援
支援契機	小学校よりネグレクトの疑い、近所からの通報
家族数の変化	6 人⇒3 人
把握時の家族と年齢	母親(37 歳)精神疾患、パートナー(42 歳)精神疾患、第 1 子(女 18 歳)、第 2 子(女 15 歳)、第 3 子(女 11 歳)、本児：第 4 子(男 7 歳)
支援年数	2 年
関係機関	中学校、小学校、福祉事務所、保育園、医療施設
特徴	母親は被虐待経験があり、精神疾患で通院中。パートナーは運送の自営業で借金をかかえ経済的に困窮状態で、不眠のため眠剤・安定剤を服用中である。 第 1 子が眠剤・安定剤を服用中しながら、第 3～4 子の世話をしていた。第 2 子は更正施設に入所中である。第 3 子は父親が異なり、発達障害のため療育手帳を交付されており、児童相談所の一時保護中である。子どもに対する愛着はあるが、改善はみられない。 最近、第 1 子が自立し一人暮らし、第 5 子は生後 3 ヵ月で祖母(父の母)が引き取り保育所へ通園している。第 4 子と両親の 3 人家族となったが、ネグレクトは改善されない。

事例 33

タイトル	母子保健担当と家庭児童担当との連携プレーによる支援事例
支援契機	医療機関よりこどもの心疾患定期管理の未受診のため通告を受けての支援
家族数の変化	2 人⇒5 人
把握時の家族と年齢	母親(23 歳)、　本児(女 2 歳)
支援年数	2 年 6 ヵ月
関係機関	医療機関　児童相談所　保育園　母子保健分野
特徴	転入事例 母親は継父(母の夫)よりネグレクト被虐待の経験があり、感情コントロールができずカッとなりやすく判断力も乏しい。飲食関係で働き、性感染症で治療したことが何度かある。パートナーは 3 人いるが同居はしていない。第 2 子は生後 3 ヵ月で深夜に窒息死した。 祖父母と同居し祖父母がこどもの面倒をみている。児は保育園に通園し、身体にあざがあったことやこどもの言葉より身体虐待が疑われた。本児は心疾患で管理中であるが、健診は未受診。居室内はゴミがあふれていた。転出により終了。

事例 34

タイトル	特定妊婦の連絡を受け、母子保健担当者と連携を組んだ事例
支援契機	大学病院より母親が適応障害で治療中であるが、こどもを抱こうとしない
家族数の変化	2 人⇒4 人⇒3 人⇒1 人
把握時の家族と年齢	母親(21 歳)妊娠中、本児(0 歳)、母の母：祖母(40 代)、母の叔母：祖母の妹(40 代)
支援年数	4～5 ヵ月
関係機関	大学病院　児童相談所　母子保健分野
特徴	母親は小学校低学年で母の母（祖母）の家出(本人：捨てられ)で、母の父（祖父）のもとで生活し、その時期に母の父（祖父）より暴力を受けていた。その後母の母（祖母）と同居した。 今回は祖母の勧めで妊娠を継続し、祖母より子育てのお金を出してもらうことと祖母が育てることで出産をすることになった。特定のパートナーは存在せず父親ははっきりしない。医療機関から特定妊婦として依頼された事例。 産後、母乳ダイエットとして熱心に授乳は行ったが、他の世話は祖母まかせで、気に入らないときは祖母に暴力をふるった。生後 3 カ月で授乳をやめ、全く世話をしなくなった。本人の希望で児は乳児院入所となった。母親に知的障害はないが、産後は適応障害の治療が中断し、感情の起伏がみられた。祖母の支援を受けたくないと一人暮らしを始め、転出した。

事例 35

タイトル	母に暴力をふるう男子中学生への支援
支援契機	中学校スクールソシャルワーカーより母に暴力をふるう生徒の支援を依頼された
家族数の変化	２人⇒3 人⇒１人
把握時の家族と年齢	母親(40 歳)精神疾患、本児(男 14 歳)
支援年数	1 年 6 ヵ月
関係機関	中学校、教育委員会、児童相談所、医療機関
特徴	母親はパニック障害とアルコール依存症の疑いで精神科受療中であるが中断している。母親は判断力、育児力が低下しており、中学生の息子と２人の生活保護世帯であった。 母親は両親が離婚し、幼少時に被虐待の経験があり、近くに実家があるも疎遠であるが、時々活用していた。 パートナーと同居したことで、パートナーと本児の関係が良くなく、母親はパートナーより DV をうけた。入籍話で母親は本児より初めて暴力を受け、肋骨を骨折した。その後も母親への暴力があり、母親が刃物を持つようになり、母親は祖母（母の母）宅に転居し、本児は一時保護により施設入所となり、安定している。

事例 36

タイトル	積極的に関わろうとすると拒否され見守り支援となった事例
支援契機	コンビニでこどもがパンを取って食べたと警察より児童相談所へ送致され、市町村での対応を求められた
家族数の変化	母の実家 7 人⇒5 人⇒6 人⇒アパート 7 人
把握時の家族と年齢	母(27 歳)うつ病、　父(33 歳)　祖母(57 歳)　祖父(59 歳)　本児：第 1 子(男 4 歳)　第 2 子(女 1 歳)　第 3 子(女 0 歳)
支援年数	3 年
関係機関	警察署、児童相談所、医療機関、幼稚園、小学校
特徴	母親はうつ病で気分の波があるが精神科通院は中断し、人見知りが強く、SOS を表さない。父親は就労しているが困窮状態と思われるが夫婦とも困窮感はない。第 4 子(女)誕生し、特に問題はないが、健診は１０ヵ月健診のみ受診。第 5 子(男)は先天性心疾患、脳性まひで重度障害児である。在宅酸素療法が必要であるが、生後 3 ヵ月以降受診せず。 他町より転入事例であるが、児の健診未受診、予防接種未接種。 第 1 子は前夫の子であり、小柄で痩せ、虫歯が多く、他児童より小さく見え、第 2 子は紙パンツ、下着姿で川べりを歩いていて保護、第 3 子は肺炎にて緊急入院となるなど、通報や連絡があるも介入を拒否され、支援を控えることがあった。問題と感じていない、困っていないので支援を拒否された。 負の連鎖を断ち切りたいと思いつつも、将来が心配なこども達である。

事例 37

タイトル	祖母の同年齢のこどもと一緒に育つ孫の事例
支援契機	医療施設より未熟児で母親の養育能力の低下が疑われるとの連絡があった。
家族数の変化	３人⇒５人
把握時の家族と年齢	母(19 歳)、父親(21 歳)、母の母：祖母(40 代前半)
支援年数	4 年
関係機関	医療機関　保育園
特徴	母親は、母がタイ人と父が日本人のハーフで、両親の離婚後祖母のもとで父親不在の状況で育ってきた。小中学校では不登校がみられ、高校中退し、妊娠出産となった。 病院より 2000 g の低出生体重の男児(第 1 子)であり、母親の精神年齢が幼く、養育能力の低下が疑われると、退院前に情報提供があった。母親は、結婚 1 年で離婚し本児を祖母のもとで育てることとなった。同時期に祖母に女児が生まれ、4 人家族となった。本児はことばの遅れがみられ、発達障害の疑いがある。 祖母の収入に頼った生活で、母親は家で昼夜逆転の生活をし、経済的に困窮の状態であった。 その後 50 代のパートナーとの間に第 2 子が生まれた。第 2 子は発育発達に問題はないようである。朝食を未摂取で保育園に登園させ、保母のアドバイスを受け入れず、嘘をつくことが多かった。祖母をキーパーソンとして受け入れられる範囲内で支援していたが、隣町に転居した。

事例 38

タイトル	少年鑑別所に入所できないと弁護士より支援を依頼された妊婦
支援契機	弁護士より妊娠出産の為に少年鑑別所に入所できないが、今後出産育児支援が必要であろうと相談があった。
家族数の変化	３人⇒４人⇒３人⇒２人
把握時の家族と年齢	母親（16 歳）妊娠中、母の父：祖父（56 歳）、母の弟(14 歳)
支援年数	1 年 6 ヵ月
関係機関	児童相談所　医療機関　重度障害児施設
特徴	母親は、両親の離婚後母の弟と祖父に厳しく育てられた。厳しい父：祖父を怖がり、嫌い家出。パートナー不明のまま妊娠した。出産後、第 1 子は重度心身障害がみられたため入院となり、そのまま施設入所となった。母親は入院中は問題なかったが、第 1 子の障害が説明されたあとではメークが派手になり、飲酒、約束を守らない行動を取るようになった。病院へ面会にも行かなくなり、家出をし、そのまま転出となった。 転出後、結婚し第 2 子が誕生し、再婚した夫を連れて第 1 子の面会に行くようになった。

事例 39

タイトル	被虐待児に自分の将来像が描ける方向に向けて支援した事例
支援契機	転入時に予防接種の説明をした際に母親の態度に疑問を感じた
家族数の変化	6 人⇒2 人
把握時の家族と年齢	母(26 歳) 第 1 子(女 5 歳)　第 2 子：本児(男 3 歳)、母の母：祖母(54 歳)、母の姉：叔母（28 歳）
支援年数	17 年（途中途切れた時期もふくめ）
関係機関	児童相談所　医療機関　福祉事務所　小中学校　保育園　民生児童委員
特徴	双極性障害のため感情コントロールが難しい母親で、障害者手帳を保有している。知的障害がみられ金銭管理はできない状態であった。母親の姉は精神障害でグループホームに入所し、母が祖母に暴力をふるうようになり、キーパーソンであった祖母は施設入所となった。第 1 子も精神疾患のため施設入所。公営住宅の居室内はゴミが散乱し、母親が調理や掃除をしないこともありヘルパーの派遣をしたが、継続しなかった。 本児は小学校の頃から学校を休むことが多く、中学 1 年より不登校状態であった。知的レベルは高く、環境を改善するために養護施設入所を勧めた結果、本人の希望で入所し、高校を卒業した。養護施設を退所後は自宅に戻り、閉じこもり状態で外出は時折パチンコに行く程度。 転入後生まれた第 3 子(妹)は発達等に問題はなく、高卒後パティシエになるため家を出て、自立している。

事例 40

タイトル	4 歳の女児が乳児のおむつを交換している事例
支援契機	第 3 子の新生児家庭訪問により把握
家族数の変化	5 人⇒4 人
把握時の家族と年齢	母(25 歳)、母の母：祖母(40 代)、母の父：祖父（50 代)、第 1 子(女 3 歳)、第 2 子(女 2 歳)、第 3 子(女 0 歳)
支援年数	23 年（途中途切れた時期もふくめ）
関係機関	児童相談所　福祉課　福祉事務所　小中学校
特徴	家庭訪問時の居室内のゴミや不潔な状況、母親の知的レベルの低さから生じる理解力、判断力の低下が見られたが、祖父母との関係は良好。 母親は、離婚後母子寮に入寮、その後結婚、離婚し祖父母のもとに戻ってきた。月のうち半分働き、休みの時はパチンコに行き、子どもはネグレクト状態。祖父母が働いており、経済的問題はなかった。第 3 子の世話は第 1 子が行うなど放任状態であった。第 1 子、第 2 子はそれぞれ独立し、祖父母と母親と第 3 子の 4 人暮らしである。 第 3 子は小学校高学年より不登校状態であったが、本を読むことや計算はできる。正規職として就職がなく、郵便局のアルバイトをしている。「中卒だから就職ができない」という第 3 子の言葉が重く感じられる。

事例 41

タイトル	母、姉、祖父より叩かれるので家に帰りたくない小学生
支援契機	児童が帰りたくないと言っていると小学校からの通告
家族数の変化	5 人⇒4 人
把握時の家族と年齢	母(45 歳)、母の父：祖父(70 歳)、第 1 子(女 14 歳)、本児：第 2 子（女 9 歳)、第 3 子(男 7 歳)ADHD
支援年数	1 年
関係機関	児童相談所　福祉事務所　小中学校　民生児童委員　家庭児童相談員
特徴	母は夜勤専門看護師として就労し、祖父(要介護・糖尿病)の介護をしている。当初は祖母や叔母(母の妹)がこどもの世話をしていたが死亡や自立により現状となった。祖父は、母が不在の夜間はこどもを杖で叩いて世話をしていた。第 1 子が本児に対し、グズグズしていると言って蹴ることがあり、暴力をふるわれるので帰りたくないと担任に告げている。 第 3 子は ADHD のため内服治療中で児童扶養手当を支給されている。第 2 子、第 3 子は学習がついていかない状態である。母親への介入をするも虐待を認めず、昼間は出かけて不在のことが多く、祖父の借金のために、自宅を売却し転出となった。

事例 42

タイトル	しつけが厳しすぎると近所からの通報で部局連携で試みた事例
支援契機	しつけが厳しくこどもがいつも泣いていると近所から通報
家族数の変化	父(22 歳)、母の母：祖母(67 歳)、本児：第 1 子(女 2 歳)
把握時の家族と年齢	3 人⇒6 人
支援年数	14 年
関係機関	児童相談所　福祉課　福祉事務所　小学校　保育園　家庭児童相談室
特徴	父親は、祖母による攻撃で母親と離婚し、児が 4 歳の時におとなしい女性と再婚した。父親に精神疾患は見られないが、言葉による攻撃が激しく、警察がいることもある。祖母は電動車椅子生活で障害年金を受給している。父親以上に言葉の攻撃が激しく、しつけも厳しい。再婚後 1 年間保育所入所するが、身体にアザがみられ、痩せてきたため、一時保護となった。6 歳の頃第 2 子(女)が生まれ、8 歳で第 3 子(男)が生まれた。平成 24 年第 1 子は 10 歳で児童保護による入所となり、翌 25 年祖母は 75 歳で施設入所となった。 健診や予防接種は 3 児とも全部受けていた。

事例 43

タイトル	母親がうつ病で自殺企図を繰り返す事例
支援契機	養育医療の申請手続き
家族数の変化	６人⇒６人
把握時の家族と年齢	母（21 歳）うつ病、父(31 歳)、母の母：祖母（50 代）、母の父：祖父（60 代）、第１子(男１歳)、本児：第２子(女)
支援年数	1 年 7 ヵ月
関係機関	医療機関　福祉事務所
特徴	36 週で帝王切開により 1634 g で出産､児はそのまま NICU 入院となる。生後 48 日で未熟児訪問し、母親に EPDS を実施した。結果得点が 10 点と高く、疲労感、頭痛を訴えた。第１子の時は、大学中退して出産子育てをした。今回第１子は実家に預けているが、疲労感が取れない。同居の祖父母は就労しており、昼間は母親と乳児のみであり、死にたい気持ちが強くなり、飛び降りようとして事故となった。保育所入所を勧めるもままならず、精神科受診となった。その後も自殺企図が見られたが、家庭訪問で経過観察し、医療機関と連携を取ってきた。 第２子の発達は緩やかであるが問題は見られないこと、うつ病の服薬治療を継続できていることなどで終了した。

事例 44

タイトル	夫からの DV と妊娠高血圧の中での子育ての事例
支援契機	妊娠届出時に妊娠高血圧がみられた事例
家族数の変化	5 人⇒8 人
把握時の家族と年齢	母(32 歳)　父(50 歳)　第１子(女７歳)　第２(女５歳)　第３子(女２歳)
支援年数	5 年
関係機関	児童相談所　小学校　保育園　家庭児童相談室
特徴	母親は、父親が異なる第１子を飛び込み出産し、以後現父親とのこどもを合わせ計６人のこどもを出産した。第４子女児の妊娠届け時に妊娠高血圧を指摘され、第５子男児、第６子女児とも高血圧で、第６子の時は専門病院受診、紹介、説得、入院治療を行った。 父親はアルコール依存症の疑いがあり、母親は父親に DV を受けていた。子どもに対し身体暴力をすることもあった。経済的に困窮状態であるがそれなりの生活をしており、お金の使い方が課題であった。 第４子はことばの遅れを指摘されるが経過観察の状態である。 こどもへの DV で児童相談所への通告があり、滞納による保育園への休園などの問題についてチームで対処してきた。

事例 45

タイトル	障害者の両親をもつこども達への支援事例
支援契機	県外市町村よりケース移管された、妊婦健診で把握された要支援事例
家族数の変化	4 人⇒6 人
把握時の家族と年齢	母(29 歳)精神疾患、父(29 歳)知的障害、第 1 子(男 7 歳)、第 2 子(男 6 歳)
支援年数	2 年 8 ヵ月
関係機関	児童相談所　医療機関　小学校　療育センター
特徴	母親は解離性障害(精神障害者)で感情のコントロールが難しい状態であり、家事援助の必要性があった。父親は知的障害者で、母親の指示で動く状態である。生活保護と障害年金で生計を立て、両親の実家とは断絶状態である。 第 1 子は障害があり療育センター通所、第 2 子は ADHD でともに体重増加不良であった。 転入後生まれた第 3 子(女 4 歳)は重度の発達障害のため療育センター通所、第 4 子(男)は特に問題はみられないが発達が遅れ気味である。両親とも同時に 2 つのことができず、対人関係が困難である。

事例 46

タイトル	小学校低学年のこども達が家事をする事例
支援契機	小学生の不登校、保育所の長欠の相談
家族数の変化	3 人⇒3 人
把握時の家族と年齢	母(27 歳)、第 1 子(女 9 歳)、第 2 子(7 歳)
支援年数	1 年
関係機関	児童相談所　小学校　保育園　民生児童委員　警察
特徴	母親は 6 年前に離婚し県外より転入してきた。母親に障害や疾病は見られないが、夜に就労しているため朝起きることができないとこども達が欠食状態で痩せている。転入直後より 2 人のこどもが夜歩きするなどで近所の通報で児童相談所が把握していたが、経過観察中であった。第 1 子が夏休みになると第 2 子は保育所を長欠し、食事がままならない状態であった。その後、第 1 子の小学校不登校が始まり、こども家庭課が支援することとなった。 家事をこども達が行っており、母親に介入するも朝食の欠食などネグレクトは改善せず、見守り体制中である。夜の就労についても「働かないとしょうがない」とのことである。

事例 47

タイトル	養育力の低い母親と窃盗事件を繰り返す父親のいる世帯への支援
支援契機	消防署から救急要請の電話が頻回にあると連絡があったことと、病院よりハイリスク妊婦支援の依頼があり支援を開始した。
家族数の変化	3 人→4 人
把握時の家族と年齢	母(24 歳)(第 3 子 妊娠中)、父(24 歳)、第 1 子(3 歳)、
支援年数	7 年
関係機関	市町村、児童相談所、医療機関、民生児童委員、社会福祉協議会、自治会
特徴	母親は身体表現性障害でパニックになることがあり他者との関係形成が苦手である。父親は窃盗事件を繰り返しており、母親への DV もあった。両親ともに依存しあっており、養育力が弱い家庭である。第 2 子は4 か月時に気管支閉塞で死亡

事例 48

タイトル	短期間で濃厚に関わった母子家庭への転出支援
支援契機	保育園より母親が粗暴で感情の起伏があると要保護児童対策地域協議会へ連絡が入り、保健師へ支援依頼があって支援を開始した。
家族数の変化	3 人
把握時の家族と年齢	母(20 代)、第 1 子(3 歳)、第 2 子(2 歳)
支援年数	4 か月
関係機関	2 か所の市町村、保育園
特徴	母親の対応の仕方や言葉遣いがあらく、幼児の子ども 2 人を置いて出かけることがあった。また、子どもが母親の顔色をうかがっておびえる様子があった。

事例 49

タイトル	「わかってます」が前提の大きい声で怒鳴る母親の子育て支援
支援契機	3 歳児健診のときに、母親からこどもの発達が気になると相談がありその場で泣き出したため、支援開始となった。
家族数の変化	4 人→3 人
把握時の家族と年齢	母(38 歳)、父、第 1 子(3 歳)、第 2 子(0 歳)
支援年数	4 カ月
関係機関	市町村、家庭児童相談室、婦人相談所、親子教室スタッフ
特徴	母親は泣くか笑うかの感情起伏が激しい母親で、役所内でも子どもを大声で怒鳴ることがあった。父親と離婚後は生活に困るが、追い込まれている状況がわからず、定職につけない。

事例 50

タイトル	母子家庭で兄から弟への暴力を真似するケース
支援契機	知的障害がある母親の支援で長期間保健師が関わっている。
家族数の変化	5 人
把握時の家族と年齢	パートナー(不明)、母(37 歳)、第 1 子(15 歳)、第 2 子(13 歳)、第 3 子(3 歳)
支援年数	18 年
関係機関	市町村、家庭児童相談課、保育園、相談支援センター
特徴	第 1 子が第 3 子への暴力をし、第 3 子が真似して保育園で友人の首をしめたり、第 4 子を傷つけたりすることがあった。母親へ第 1 子への対応の方法について助言するが、なかなかよくならなかった。

事例 51

タイトル	多くの関係機関と連携して支援した事例
支援契機	県外からの転入事例で乳児健診後期で母親から相談があり支援を開始した。
家族数の変化	3 人
把握時の家族と年齢	母(20 代)、父(40 代)、第 1 子(0 歳)
支援年数	3 年 6 カ月
関係機関	市町村、家庭児童相談室、親子通園、児童センター、NPO いっぽ
特徴	母親は統合失調症であり妊娠中に大学の精神科に入院していた。父親の転勤で出産して数カ月後に本県へ引っ越した。母親は月経前に体調不良と不安感があるため、精神科受診を保健師が勧めるが、父親が母親の内服を拒否したため、現在内服を中断している。

事例 52

タイトル	乳児がいるのにきれいにされていないおうちへの訪問事例
支援契機	こんにちは赤ちゃん事業で出生体重が 4 kg以上は保健師の訪問対象となるため、訪問した。
家族数の変化	3 人
把握時の家族と年齢	母(30 代)、父(30 代)、第 1 子(0 歳)
支援年数	6 か月
関係機関	市町村、医療機関
特徴	第 1 子が 4 カ月の時には体重が約 10 kgあった。父親の前妻が使っていた部屋をそのまま使っており、前妻の子が書いた絵が貼られていたり、片づけられていない部屋の中で生活している。

事例 53

タイトル	訴えが少ない母親への支援
支援契機	児童家庭課より第 1 子の児童虐待の疑いがあり、新生児訪問を実施した。
家族数の変化	4 人→3 人
把握時の家族と年齢	父(31 歳)、母(32 歳)、第 1 子(小 3)、第 2 子(0 歳)
支援年数	4 か月
関係機関	2 か所の市町村、児童家庭課、小学校
特徴	母親へ第 2 子の訪問時に、父親や第 1 子の育児で困っていることを聞くがほとんど聞けなかった。第 2 子の生後 5 か月時に離婚した。

事例 54

タイトル	出産後も自分中心な生活を送る母親への支援
支援契機	他市からの転入で、第 1 子の出産後に助産師訪問の対象だったが、保健師が訪問することになり、新生児訪問をしたことから支援開始となった。
家族数の変化	3 人→2 人
把握時の家族と年齢	母(32 歳)、父(41 歳)、第 1 子(0 歳)
支援年数	3 年
関係機関	市町村、児童家庭課、ファミサポ
特徴	父親がうつ病で父親に対する不満やストレスを抱えながら子育てをしていた。子どもがギャーっとわめくように泣いていた。

事例 55

タイトル	若年出産の子と家庭を支える支援
支援契機	母子健康手帳交付時に 14 歳の若年妊婦であったことから支援開始となった。
家族数の変化	5 人→6 人
把握時の家族と年齢	母の母親(37 歳)、母(14 歳)、パートナー(16 歳)、母の兄(19 歳)、母の兄(17 歳)、母の弟(1 歳)
支援年数	1 年 5 カ月
関係機関	市町村、児童家庭課、児童相談所、中学校、医療機関
特徴	14 歳が妊娠 27 週で第 1 子を出産した。出産して数か月後にパートナーに新しい彼女ができてパートナーとは別れた。

事例 56

タイトル	耳だれがある 2 児を病院へ連れて行かない母親への支援
支援契機	保育所から児童家庭課へ耳だれのある児を受診させない母親の件で連絡が入り、保健師へ支援依頼の連絡があった。
家族数の変化	6 人(離婚後に実家在住)→6 人(再婚)
把握時の家族と年齢	母(24 歳)、第 1 子(6 歳)、第 2 子(2 歳)、
支援年数	3 年 7 カ月
関係機関	市町村、児童家庭課、保育園、小学校
特徴	母子手帳交付の時期が第 3 子は妊娠 22 週、第 4 子は 32 週で第 4 子は無保険で出産した。母親は何を言ってもにこにこしていて返事はよかった。

事例 57

タイトル	両親ともに精神疾患(統合失調症)を抱えながら子育てをしている世帯
支援契機	両親ともに精神疾患の治療中であるため、第 1 子出産時に保健所保健師から市の保健師へ情報提供があり支援開始となった。
家族数の変化	3 人→4 人
把握時の家族と年齢	母(20 代)、父(30 代)、第 1 子(0 歳)
支援年数	12 年
関係機関	保健所、市町村、医療機関、福祉事務所、小学校、障害者支援センター、訪問看護
特徴	父方実母の干渉による精神科疾患の治療妨害のせいで両親の病状が不安定になり、家庭環境を悪化させていた。

事例 58

タイトル	知的障害の母と乳幼児 2 人の母子世帯
支援契機	第 5 子の母子健康手帳交付時面談にて支援が必要な世帯と判断し、支援開始となった。
家族数の変化	4 人→3 人
把握時の家族と年齢	母(37 歳)、パートナー(50 代)、第 5 子(妊娠中)
支援年数	2 年
関係機関	市町村、家庭児童相談員、医療機関、NPO いっぽ
特徴	知的障害があり 1 人目のパートナーとの間で第 1 子を産むが別れた。2 人目のパートナーと結婚して 3 人の子供を産むが離婚した。3 人目は既婚者で DV をするパートナーで間には二人の子どもがいる。